

The Hyogo Institute of Assistive Technology

兵庫県立 福祉のまちづくり研究所

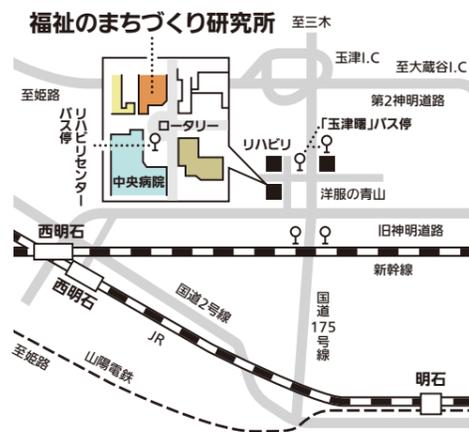
ユニバーサル社会の実現を目指して

兵庫県立福祉のまちづくり研究所

〒651-2181 神戸市西区曙町1070
(総合リハビリテーションセンター内)
TEL: 078-925-9283 FAX: 078-925-9284
URL: <https://www.assistech.hwc.or.jp/>
E-mail: info00@assistech.hwc.or.jp



ACCESS



- JR明石駅、山陽電車 山陽明石駅から
 - ・神姫バス(約15分)「県立リハビリセンター」下車すぐ
または「玉津曙」下車徒歩5分
 - ・タクシー(約10分)
 - JR西明石駅から
 - ・神姫バス(約20分)「県立リハビリセンター」下車すぐ
 - ・タクシー(約5分)
- ※バスの時刻・乗り場等の詳細は
神姫バスのホームページ等でご確認ください。

兵庫県立福祉のまちづくり研究所は
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団が運営しております

人ファーストと イノベーションで 未来を築く



「すべての人々にやさしい福祉のまちづくりをめざして、研究開発を推進し、その成果を広く情報発信する」ことを理念として掲げ、
「本当に役立つもの」を届けるための取り組みを行っています。



「福祉のまちづくり研究所」では、病院や福祉施設に隣接する立地環境を活かし、現場ニーズに基づいたさまざまな事業に取り組んでいます。すべての人が地域社会の一員として尊重され、互いに支え合い、一人ひとりが持てる力を発揮できる社会の実現へつなげていきます。

ロボット リハビリテーションセンター

2つのミッションを設け、補装具の製作、AI技術やIoTを活用したシステムのほか、車椅子ユーザー向けのアプリなど実用的な機器の研究開発を行っています。

介護ロボット開発支援・ 普及推進・研修センター

介護ロボットを含む福祉用具全般の開発や導入を支援し、その普及を推進するほか、高齢者や障害者の生活を支える人材の育成を目的とした研修にも力を注いでいます。

ロボットリハビリテーションセンター

隣接するリハビリテーション中央病院と連携し、ロボット機器を活用した効果的なリハビリテーションの実践や研究、臨床現場のニーズを踏まえてロボット技術を応用した研究開発に取り組んでいます。機器ではなく、人を中心とした臨床と工学の連携により、使う人と作る人が協力し合うことで「本当に役立つもの」の創出を目指します。

研究開発

ロボットテクノロジーミッション

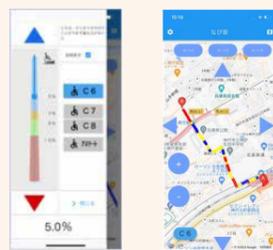
病院や福祉施設に隣接する立地環境を活かし、臨床(病院)や福祉現場(福祉施設)と研究(研究所)の連携から、障害のある方々やその支援者の声に基づいた研究開発を行っています。また、研究開発に留まらず、成果を社会に出していけるよう、企業との連携による商品開発、実用化による社会実装を目指し取り組んでいます。今後も障害のある方々の活動の範囲を広げていくために、また、より暮らしやすい日常生活を実現するために、さまざまな機器・システムの研究開発に取り組んでいきます。



主要プロジェクト

車椅子利用者向け 地図アプリ「なび坂」

車椅子をこぐ力は障害の特性等、人によって大きな差があります。頸髄損傷の分類など、その人の発揮できる力を基に経路上の坂道の難易度を三色で表示する地図アプリです。



自身の頸髄損傷レベルを選択
地図上で経路と難易度を表示

スポーツ導入を目的とした 子ども用車椅子

神戸エアロネットワーク(KAN)と共同でスポーツ導入を目的とした子ども用車椅子の開発を行っています。KANの最新の生産技術と福祉のまちづくり研究所のノウハウを融合した、安価で軽量・軽快な車椅子です。



補装具製作

主に子どもの筋電義手の製作適合を行っています。また、筋電義手を使用している子どもがお茶碗などの食器を持ちやすくするための道具(自助具)なども製作しています。

※筋電義手とは、筋肉が収縮する際に発生する微弱な電流を利用して動かすことができる電動の義手です



AI・コミュニケーションミッション



「介護予防」や「生活支援」分野における、AI・IoTを取り入れた評価機器の開発や環境整備手法などの研究に取り組んでいます。それに加えて、ロボット技術を活用した高齢者の健康長寿を実現する取り組みとして「RoboWELL」を展開しており、高齢者の健康増進を促進するための体操も作成しています。こうした取り組みは兵庫県内の自治体と連携して実施されており、これらを活用していただくことで、高齢者や障害者が可能な限り暮らし慣れた場所で自立した生活を営み、安心して暮らしていけるよう支援していきます。



主要プロジェクト

フレイル評価椅子

非常に簡単に一人で短時間にフレイルリスク(身体的虚弱)状態に陥っているか否かを評価できる椅子です。この椅子に座ると自動的に計測が始まり、立ち上がると計測が終了します。結果は、背もたれの画面に表示されます。



モーションセンサを使用した 身体機能評価ゲーム

転倒のリスクや視覚・聴覚・触覚刺激に対する反応時間といった身体機能を評価できるゲームシステムです。楽しみながら自分の身体の衰えを確認することができ、継続使用することでトレーニングに活用することもできます。



RoboWELL体操

さまざまなご当地体操から身体機能の衰えを網羅的に改善するためのエッセンスを厳選した体操です。手軽に実施してもらえよう体操の内容は、YouTube、DVD、冊子などさまざまな媒体で配布しています。



介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター

福祉用具・介護ロボット等の企業による開発や介護施設での導入に向けた支援を行っています。また、約700点の福祉用具・介護ロボットを実際に「見て・触れて・試す」ことや、相談もできる福祉用具展示ホールの運営など普及推進にも力を入れるほか、高齢者介護や障害者支援に関わる専門的人材の育成を目的とした研修にも取り組んでいます。

開発支援・導入支援

介護現場の革新を目指しテクノロジーが現場に届く支援を

福祉のまちづくり研究所では、平成25年度から介護ロボットの開発・導入支援事業を開始し、介護ロボットの普及推進、企業への開発支援、介護現場における導入支援を実施しています。



普及推進

福祉用具・介護ロボットの普及推進

福祉のまちづくり研究所の1階には、約700点の福祉用具・介護ロボットが展示された『福祉用具展示ホール』があります。「見て・触って・体験する」をテーマに、福祉用具や最先端の介護ロボット機器の実機体験はもちろん、心身機能・住環境に適した福祉用具の選定や住宅改修の支援および福祉・介護に関する情報提供を行っています。障害を持つ方からその家族、支援者、開発を目指す企業の方まで、どなたでもご来場いただけます。



▶▶▶ 開発企業の方へ

介護ロボット等の開発支援 (ひょうご介護ロボット開発支援窓口)

本当に役立つ介護ロボット等が現場に届くよう、企業に向けて機器開発コンセプト等の相談対応や補助金・既存製品等の情報提供、機器に対するアドバイス支援等を実施。「ニーズ・シーズ介護ロボサロン」では、利用者と介護ロボット等の開発企業の出会いの場の提供や、介護現場課題(ニーズ)の発信の場としてオンラインセミナーを実施しています。



▶▶▶ 介護施設の方へ

介護ロボット等の導入支援 (生産性向上支援)

介護の質や業務効率向上のため、施設等に向けて相談対応、最先端の機器や補助金などの情報提供、介護ロボット等を効果的に活用するための導入支援研修を実施。施設課題から導入機器の選定、使用方法の伝達まで、きめ細かい伴走型支援(コンサルテーション支援)を行うほか、福祉用具展示ホールでは機器選定に向けた体験展示や試用貸出を実施しています。



研修

介護・支援の知識と技術を高め、人材育成にも注力

誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりの一環として、専門的人材の育成を目的に様々な研修を実施しています。その大半は兵庫県から委託を受けた法定研修ですが、それ以外に職員の知識・技術の向上や、職員、利用者ともに安全で安心な環境、職場づくりを目指した法定研修者のフォローアップ研修、ノーリフティングケアの普及に向けた研修なども開催しています。



子どもたちの夢や、障害のある方の自立を支える

小児筋電義手バンク

小児筋電義手バンクは、子ども用の筋電義手の普及を目的として設立されました。多くの皆様から温かなご厚意をいただいております。筋電義手を必要とするお子様への訓練用義手の無償貸出しや小児筋電義手の訓練を行う人材の育成などに活用しています。



テクニカルエイドサービス

福祉用具は、使う人や使用する環境に応じて適切に適合させることが大切です。福祉のまちづくり研究所では、福祉用具展示ホールの展示品や専門的な計測装置等を用いて、使いやすい福祉用具の適合を支援するテクニカルエイドサービスを実施しています。



Pick Up!

次世代型住モデル空間(開発機器の実証評価)

開発機器の使い勝手や身体にかかる負荷等を科学的に評価・検証する実証評価を実施し、企業の開発を応援しています。一方で、実際の施設環境を想定した中で、機器を評価し有効な介護ロボットの導入を応援します。

